

須崎高等学校と須崎工業高等学校の統合後の新しい学校の「より具体的な姿」について（案）

1 拠点校としての目標（達成年度は統合から5年度の平成35年度）

（1）大学進学に向けた指導の充実

- ・ 普通科からの国公立大学合格者20名を目標（H26.3卒業者は9名）として取り組む。
- ・ 工業科からの国公立大学合格者10名を目標（H26.3卒業者は1名）として取り組む。

（2）就職に向けた指導の充実

- ・ 普通科における就職率を100%の実績を維持する。
- ・ 工業科における就職率100%の実績を維持する。

（3）学校の活性化

- ・ 生徒数が確保されることで、体育祭や文化祭などの特別活動の活性化につなげるとともに、男女バランスが取れることを生かして、両性の視点を踏まえたキャリア教育や道徳教育等の取組の充実を図る。さらに、部活動においても野球やサッカーなど多人数を必要とする部活動も積極的に取り組むとともに、機械工作部などの工業科に特有の部活動についても部員数の増加を生かして活性化につなげていく。
- ・ 教員組織についても普通科と工業科にそれぞれ副校長を配置するなどして、それぞれの学科の取組を充実させるとともに、進路指導などの両科の連携を円滑に行う。

2 統合後の教育課程

就職に強い須崎工業高校の取組と進学に関する須崎高校の取組を、さらに発展させ、両校の強みを生かした魅力ある学校づくりを推進するという視点から、教育内容の一層の充実を図る。

普通科では、国公立大学等に進学できる体制をつくるとともに、生徒個々に応じたきめ細やかな学習指導により、進学から就職までの多様な進路希望に対応する。

工業科では、幅広い専門的な知識・技術を学びながら、専門分野を深く学ぶ体制を整えるとともに、資格取得に取り組むなど、就職支援体制を強化する。

なお、統合後の新しい学校の具体的な教育課程は今後、両校と検討を重ねて決定していく。

（1）学科等の構成

普通科では、1年次は習熟度別授業を充実し、2年次から進路希望に応じたコースと少人数クラスを設けることを検討していく。

工業科では、4学科から3学科にしたうえで、専攻制を導入して1つの学科を2つの専攻に分けることや、学科の枠を外して入学者を募集する（※1）くくり募集を行い、コース制を導入することなどで4つの学科の内容を継承していくことも考えられる。今後、工業科の4つの学科の内容を継承していく方向で検討していく。

※1 くくり募集とは、学科ごとに入学者を募集せず、工業科の定員120人をまとめて募集を行い、入学後にコースに分ける選抜方法のこと。

（例）普通科：1年次から習熟度別授業や選択科目に難関大学講座を設定し、2年次からは難関大学クラスを設定して国公立大学進学対応する。
工業科：3学科とし、うち1学科を2つの専攻に分けることで4つの領域を学習できる体制を維持する。

	普通科（定員120名）			工業科（定員120名）		
1年	国語、数学、英語に習熟度別授業に難関大学講座を設定する。					
2年	標準クラス			A学科 (定員40名)	B学科 (定員40名)	C学科 D専攻(定員20名) E専攻(定員20名)
3年	理系コース (医療系)	文系コース (福祉系、商業系)	大学・短大 進学クラス 難関大学クラス (仮称)			
理数系科目で普通科の大学・短大進学クラスや難関大学クラスとの共通選択科目を設定						

（2）大学進学に向けた取組

○ 教科担当者による添削等の教科指導や3年生全員を対象とした進路検討会を校内研修として実施するなどの取組に加えて

コース等	○ 大学・短大進学クラスと難関大学クラスを設置し、国公立大学等への進学を目指すとともに、理系コースと文系コースで進学から就職まで幅広い進路実現を目指す。
進学への取組	<p>（全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次の習熟度別授業を数英の2教科から国数英の3教科に拡大（難関大学クラス） ・ 1年次の難関大学講座の選択者と2年次からの難関大学クラスは、週2回7限目（通常は6限目まで）を実施し、土曜日の大学進学講座を受講することを必須とする。 ・ 2年次から難関大学クラスとして少人数指導を実施する。 ・ 難関大学の推薦入試やAO入試に対応できるよう課題研究の実施。論理的思考力や表現力をこれまで以上に育成する。 ・ 広島大学などの中四国の拠点となる大学との連携を強化し、生徒が大学へ行き、課題研究の指導を受けることで、大学進学意欲の向上を図る。

※ 工業科との連携により就職希望者を対象にインターンシップの実施

（3）工業科の取組

○ 基礎学力の定着を図る習熟度別授業の実施や（※2）チームティーチングによる授業、資格取得やものづくりなどのこれまでの取組に加えて

進学への取組	<p>○ 理数系科目で普通科の大学・短大進学クラスや難関大学クラスとの共通選択科目を設定し、大学進学への支援体制を充実させる。</p> <p>○ 普通科の難関大学クラスの課題研究と連携して、論理的な思考力や表現力を育成する指導方法を導入する。</p>
--------	---

※2 チームティーチングとは、二人担当制によるきめ細やかな指導

（4）その他の検討すべき取組

- ・ 学科を超えて科目選択ができる総合選択制の導入による多様な進路希望への対応
- ・ 土曜授業の実施による教育活動の充実

3 統合に向けた取組

（1）統合準備委員会（仮称）の設置

県立高等学校再編振興計画の策定後、両校を中心に速やかに設置し、検討を開始する。（テーマに応じて、学校関係者や有識者を招へいする。）

- ・ 校名、校章、校歌等
- ・ 教育環境（ハード面）の整備
- ・ 教育課程
- ・ 学校行事
- 等

（2）両校の交流

- ・ 防災教育で地域と連携
- ・ ドラゴンカヌーに代表される地域おこし活動の継承
- ・ 生徒会活動や体育祭、文化祭等の特別活動の連携

（3）学力向上対策

- ・ 大学進学に向けた生徒の学力分析と効果的なフィードバック方法の研究
- ・ 学習合宿の充実
- ・ 県内外の進学校での生徒の短期研修

（4）教員の指導力の向上

- ・ 国公立大学進学に向けた学習指導の研究を行う教師塾の実施
- ・ 他の都道府県の進学校での教員の短期研修